Miyazaki Women's Junior College

宮崎女子短期大学紀要　第26号　57～73頁

# 中学・高等学校における「郷土芸能」の取り扱いについて

## －宮崎県内アンケート調査から－

佐々木昌代・高橋るみ子*

# Using "Local Performing Arts" in Jr. and Sr. High School Teaching.
## —The Survey in Miyazaki Prefecture—

Masayo SASAKI・Rumiko TAKAHASHI

## 1．はじめに

平成９年度より高橋を中心に，宮崎県女子体育連盟会員の協力を得て，宮崎の子どもたちから宮崎らしい表現を引き出すことを企図した，宮崎の「郷土芸能」を題材とした表現・創作ダンス（"創作"と"伝承"を同時に体験する学習）の授業づくりに取り組んできた。

その教材づくり，授業研究の手掛かりとなる基礎資料を得るために，まず，県内の小学校を対象に，教育活動にどのように「郷土芸能」が取り入れられているか，あるいはどうして取り入れられないか等々，アンケートによる実態調査も行ない，その結果は『表現運動とフォークダンス（日本の民踊）の学習』[1]として報告した。さらに，小学校で取り組みの多かった郷土芸能を取り上げ，授業研究をすすめ，その成果を『郷土芸能を題材とした表現・創作ダンスの学習』[2]としてまとめた。

なお，これら学校教育の視点から郷土芸能の学習材としての可能性を探るとともに，地域の視点から地域と学校教育をつなぐ郷土芸能の可能性についても，教育委員会や郷土芸能の保存会に聞き取り調査を行ない，事例的に報告[3]した。

## 2．目的

本年度は，小学校と同様のアンケート調査を県内の中学・高等学校に対して実施し，小学校から高等学校まで見通して，教育課程における「郷土芸能」の取り扱いの実態について検討することから，研究を深め，授業づくりを一層すすめる手掛かりを得ようとした。

---

*宮崎大学教育文化学部助教授



NII-Electronic Library Service

Miyazaki Women's Junior College

しかしながら，今回の調査結果からは，中学校と高等学校の取り扱いに，予想以上に違いが認められ，さらに，中学校の取り組みの実態がすでに報告した小学校の実態に近いことが判明した。

そこで，本報告では，宮崎県の中学校および高等学校における「郷土芸能」の取り扱いの実態について，共通点と相違点を中心に考察をすすめた。

## 3．方法

調査対象：宮崎県内の中学校，高等学校

＜中学校＞

| | |
|---|---|
| 公　立 | 146 |
| 国　立 | 1 |
| 県立中等教育学校（前期） | 1 |
| 私　立 | 4 |
| 計 | 152 |

＜高等学校＞

| | |
|---|---|
| 県　立 | 44 |
| 県立中等教育学校（後期） | 1 |
| 私　立 | 15 |
| 計 | 60 |

調査方法：郵送にてアンケート用紙を配布，回収した。

調査期間：平成11年度６月中旬に発送，７月～８月に回収した。

研究趣旨の説明，調査協力については，調査対象の中学校，高等学校とともに，宮崎県教育委員会，教育事務所，市町村教育委員会に対しても文書にて依頼した。

## 4．結果

**表１―①**　実践率（中学校）

| 地　域 | 学校数 | 回答数(回収率) | 取り上げている | 取り上げていない | 無回答 | 実践率 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 宮　崎 | 33 | 20(60.6%) | 3 | 16 | 1 | 15.0% |
| 南那珂 | 16 | 9(56.3%) | 4 | 5 | | 44.4% |
| 北諸県 | 20 | 11(55.0%) | 6 | 5 | | 54.5% |
| 西諸県 | 16 | 8(50.0%) | 4 | 4 | | 50.0% |
| 児　湯 | 16 | 12(75.0%) | 4 | 8 | | 33.3% |
| 東臼杵 | 39 | 26(66.7%) | 13 | 12 | 1 | 50.0% |
| 西臼杵 | 12 | 5(41.7%) | 5 | 0 | | 100.0% |
| 全　県 | 152 | 91(59.9%) | 39 | 50 | 2 | 42.9% |

*私立、国立、県立中等教育学校（前期）については所在地により振り分けた

**表１―②**　実践率（高等学校）

| 種　別 | 学校数 | 回答数(回収率) | 取り上げている | 取り上げていない | 実践率 |
|---|---|---|---|---|---|
| 県　立 | 45 | 27(60.0%) | 13 | 14 | 48.1% |
| 私　立 | 15 | 9(60.0%) | 3 | 6 | 33.3% |
| 全　県 | 60 | 36(60.0%) | 16 | 20 | 44.4% |



NII-Electronic Library Service

Miyazaki Women's Junior College

**表2－①　3年間に取り組まれた郷土芸能の学習（中学校）**　　＊ 複数回答

| 郷土芸能の名称 | |
|---|---|
| **盆踊り・音頭** | **23** |
| ばんば踊り | 4 |
| 鹿川ばんば踊り | 1 |
| ばんば太鼓 | 1 |
| 盆踊り | 1 |
| 盆供養踊り | 1 |
| いだごろ踊り | 2 |
| ひえちぎり踊り | 1 |
| いろは口説き | 1 |
| 四半的口説き | 1 |
| チョイガマカ | 1 |
| 小林音頭 | 1 |
| 小布瀬滝祭音頭 | 1 |
| 新山田音頭 | 1 |
| 高城音頭 | 1 |
| 東郷音頭 | 1 |
| 日南音頭 | 1 |
| 野尻音頭 | 1 |
| 宮崎音頭 | 1 |
| よったけ音頭 | 1 |
| **棒踊(棒術)** | **8** |
| 棒踊り | 3 |
| 鴨野棒踊り | 1 |
| ねり | 1 |
| 家代ねりふみ | 1 |
| 棒術 | 1 |
| 棒花体操 | 1 |
| **神楽** | **8** |
| 神楽 | 6 |
| 銀鏡神楽 | 1 |
| 船引神楽 | 1 |
| **太鼓踊り** | **5** |
| 臼太鼓踊り | 2 |
| 城攻め踊り | 2 |
| 南州太鼓 | 1 |
| **その他** | **9** |
| 団七踊り | 1 |
| やっさ節 | 1 |
| 泰平踊り | 1 |
| ジャンカン馬 | 1 |
| 荒馬 | 1 |
| 一の宮神社夏祭り | 1 |
| 祝いめでた唄 | 1 |
| 冠太鼓 | 1 |
| 北川太鼓 | 1 |

| 対　象 | |
|---|---|
| 全校生徒 | 23 |
| 全学年男女から | 3 |
| 全学年男子から | 3 |
| 全学年女子から | 3 |
| 3年生全員 | 2 |
| 女子全員 | 2 |
| 男子全員 | 1 |
| 学年別男女から | 3 |
| 学年別男子から | 1 |
| 無回答 | 4 |

| 学習活動* | |
|---|---|
| ①保健体育科の単元 | 11 |
| ②保健体育科以外の教科の単元 | 1 |
| ③学校行事 | 24 |
| ④クラブ活動 | 8 |
| ⑤部活動 | 2 |
| ⑥その他 | 10 |

| 学習内容* | |
|---|---|
| ①踊りの練習 | 39 |
| ②歌や踊りの練習 | 9 |
| ③歌や踊りの意味の学習 | 8 |
| ④歴史や由来の学習 | 9 |
| ⑤その他 | 1 |
| 無回答 | 1 |

| 発表の場* | |
|---|---|
| ①単元の中 | 1 |
| ②独自の校内発表会 | 8 |
| ③体育的行事 | 29 |
| ④地域の祭礼や年中行事 | 7 |
| ⑤地域のイベント | 6 |
| ⑥他団体との交流会 | 6 |
| ⑦その他 | 9 |

| 担当者* | |
|---|---|
| ①保健体育科の教員 | 15 |
| ②保健体育科以外の教員 | 18 |
| ③保護者 | 6 |
| ④その他 | 15 |
| 無回答 | 2 |

| 配当時間 | |
|---|---|
| 1～5時間 | 21 |
| 6～8時間 | 5 |
| 15時間 | 4 |
| 35時間 | 3 |
| 1時間未満 | 2 |
| その他 | 2 |
| 無回答 | 7 |

| | |
|---|---|
| <②保健体育科以外の教科> | |
| • 音楽科 | 1 |
| <⑥その他> | |
| • 創意の時間 | 4 |
| • 生徒の自主的活動 | 2 |
| • 放課後，夜 | 2 |
| • 学級活動 | 1 |
| • 道徳 | 1 |
| • 学校裁量の時間 | 1 |
| • 創立記念式典 | 1 |
| <⑤その他> | |
| • 太鼓の練習 | 1 |
| <⑦その他> | |
| • 文化祭 | 7 |
| • 県主催研究大会 | 2 |
| • 高文祭招待 | 1 |
| • 学校・地区合同体育大会 | 1 |
| • 入学式，卒業式 | 1 |
| • 創立記念式典 | 1 |
| <④その他> | |
| • 地域の指導者，伝承者（保存会，愛好会，老人会） | 11 |
| • 生徒会 | 1 |
| • 先輩 | 1 |

| 実施時期 | |
|---|---|
| 4月 | 2 |
| 7月 | 3 |
| 8月 | 1 |
| 9月 | 20 |
| 10月 | 3 |
| 11月 | 2 |
| 通年，継続的 | 5 |
| 後期 | 1 |
| 無回答 | 7 |



NII-Electronic Library Service

Miyazaki Women's Junior College

**表２－②　３年間に取り組まれた郷土芸能の学習（高等学校）**　　＊ 複数回答

| 郷土芸能の名称 | |
|---|---|
| 盆踊り・音頭 | 10 |
| ばんば踊り | 3 |
| 庵川ばんば | 1 |
| 門川ばんば踊り | 1 |
| 綾音頭 | 1 |
| がっつい音頭 | 1 |
| 国富音頭 | 1 |
| 小林音頭 | 1 |
| 高城音頭 | 1 |
| 太鼓（バラ踊り） | 4 |
| 臼太鼓踊り | 2 |
| 熊襲踊り | 1 |
| 日向十五夜踊り | 1 |
| 神楽 | 2 |
| その他 | 7 |
| 穂満坊三月十日踊り | 1 |
| 安久節（やっさ節） | 1 |
| あしび庭（沖縄） | 1 |
| 郷土の民謡 | 1 |
| 和太鼓 | 1 |
| 日本太鼓「やまび鼓」 | 1 |
| 郷土芸能的太鼓 | 1 |

| 対　象 | |
|---|---|
| 全校生徒 | 3 |
| 女子全員 | 3 |
| 学年別男女から | 3 |
| ２学年男子から | 2 |
| 学年別女子から | 2 |
| ３年生全員 | 2 |
| ２年生全員 | 1 |
| 学年別男子から | 1 |
| 全学年男子から | 1 |
| 無回答 | 1 |

| 学習活動* | |
|---|---|
| ①保健体育科の単元 | 9 |
| ②保健体育科以外の教科の単元 | 0 |
| ③学校行事 | 7 |
| ④クラブ活動 | 2 |
| ⑤部活動 | 0 |
| ⑥その他 | 6 |

| 学習内容* | |
|---|---|
| ①踊りの練習 | 13 |
| ②歌や踊りの練習 | 5 |
| ③歌や踊りの意味の学習 | 2 |
| ④歴史や由来の学習 | 2 |
| ⑤その他 | 5 |
| 無回答 | 1 |

| 発表の場* | |
|---|---|
| ①単元の中 | 4 |
| ②独自の校内発表会 | 6 |
| ③体育的行事 | 10 |
| ④地域の祭礼や年中行事 | 0 |
| ⑤地域のイベント | 0 |
| ⑥他団体との交流会 | 2 |
| ⑦その他 | 6 |

| 担当者* | |
|---|---|
| ①保健体育科の教員 | 8 |
| ②保健体育科以外の教員 | 4 |
| ③保護者 | 0 |
| ④その他 | 8 |
| 無回答 | 2 |

| 配当時間 | |
|---|---|
| １～９時間 | 13 |
| 10～12時間 | 2 |
| 20時間 | 1 |
| その他 | 2 |
| 無回答 | 1 |

＜⑥その他＞

| | |
|---|---|
| ・高文祭 | 2 |
| ・体育大会の練習 | 2 |
| ・国際交流（修学旅行） | 1 |
| ・同好会 | 1 |
| ・放課後中心 | 1 |

＜⑤その他＞

| | |
|---|---|
| ・創作ダンス | 2 |
| ・作品づくり | 2 |
| ・和太鼓 | 2 |
| ・動きづくり | 1 |
| ・曲づくり | 1 |

＜⑦その他＞

| | |
|---|---|
| ・高文祭，高Ｐ連大会，産業教育フェア | 7 |
| ・文化祭，学園祭，農場祭 | 3 |
| ・姉妹校との交流会 | 2 |
| ・女子体育連盟の発表会 | 1 |
| ・ボランティア活動（施設訪問） | 1 |

＜④その他＞

| | |
|---|---|
| ・地域の指導者，保存会 | 5 |
| ・上級生 | 1 |

| 実施時期 | |
|---|---|
| ６月 | 1 |
| ８～９月 | 1 |
| ９月 | 5 |
| 10月 | 5 |
| 11月 | 1 |
| 通年 | 2 |
| 後期 | 1 |
| 無回答 | 3 |



NII-Electronic Library Service

図1－①　郷土芸能の指導（中学校）

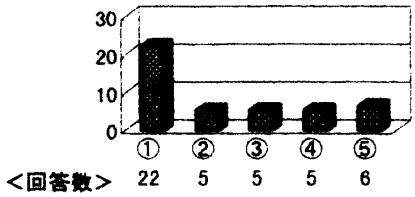
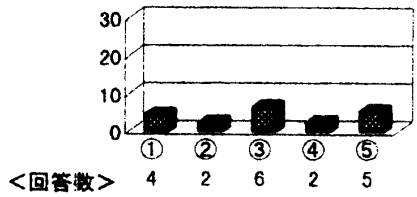



図1－②　郷土芸能の指導（高等学校）




①地域の指導者や伝承者に直接指導を任せている
②「郷土芸能」の知識・技能をもつ教員が指導している
③「郷土芸能」の知識・技能をもたない教員が，伝承者や保存会の指導を受け，指導に当たる
④担当教員がいろいろ調べて指導している
⑤その他

郷土芸能の指導＜⑤その他＞（中学校）

- 地域の指導者・伝承者と教員が協力して指導している（2）
- 小学校でやっていた生徒達を中心に教え合う場を作った（1）
- 生徒が踊りを知っている（1）
- 知識・技能をもたない教員が指導を受け，転勤したら残っている教員が新任に教える（1）

郷土芸能の指導＜⑤その他＞（高等学校）

- 地域の指導者と教員が協力して指導する（1）
- 生徒達自身が資料収集，VTR収録して，教え合った（1）
- 担当教員が解説書をみて指導する（1）
- ＰＴＡ雇用の職員と同好会顧問（1）
- 伝統的に踏襲している（1）

図2－①　郷土芸能を取り上げる理由（中学校）

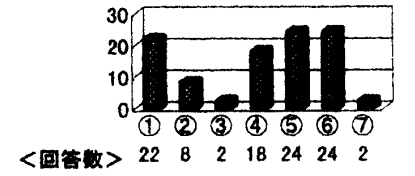
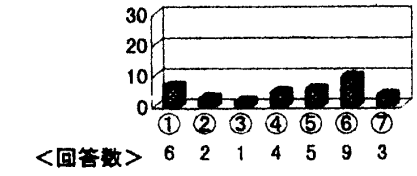



図2－②　郷土芸能を取り上げる理由（高等学校）




①地域にすぐれた「郷土芸能」があるから
②地域から「郷土芸能」を取り上げてほしいという要望があるから
③生徒達から「郷土芸能」を取り上げてほしいという要望があるから
④生徒達に歌ったり，踊ったり，演じたりを楽しむ体験をさせたいから
⑤生徒達に地域や日本の文化を伝承してもらいたいから
⑥生徒達が郷土や自文化について再発見する機会としたいから
⑦その他

郷土芸能を取り上げる理由＜⑦その他＞（中学校）

- 武道指導推進指定校のため，その研究の一環（1）
- 生きる力を身に付けるため（1）
- 地域との交流を図るため（1）

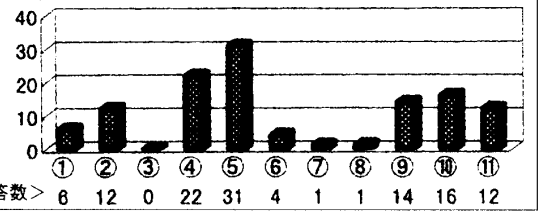
郷土芸能を取り上げる理由＜⑦その他＞（高等学校）

- 高文祭に関連して取り上げた（2）
- 「豊かな心」育成の観点から（1）
- 町独特の踊りを他地域に披露したい（1）



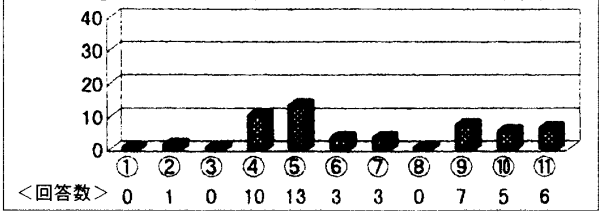
NII-Electronic Library Service

図3－①　郷土芸能を取り上げていない理由（中学校）




①地域に「郷土芸能」がない
②地域に教育活動として取り上げるにふさわしい「郷土芸能」がない
③地域の協力が得られない
④指導できる教員がいない
⑤取り上げる時間がない
⑥学校全体の協力が難しい

図3－②　郷土芸能を取り上げていない理由（高等学校）




⑦発表の場がない
⑧教育活動の中で「郷土芸能」の伝承を取り扱うことに抵抗感がある
⑨生徒の興味・関心が薄い
⑩太鼓などの道具や衣装がない
⑪その他

郷土芸能を取り上げていない理由＜⑦その他＞（中学校）

- 取り組みを検討中，「総合的学習の時間」などで取り上げたい（4）
- 郷土芸能は小学校で行っている（2）
- 部活動加入者が多く，放課後や土日も実施困難である（1）
- 教材としてどのように取り入れていけばよいか分からない（1）
- 社会福祉理解など，他の活動に力を入れている（1）
- 地域の特性を生かした学校行事に多くの時間を使っている（1）
- 体育大会で踊っていたが，テンポがゆっくりで生徒の意見で今はやっていない（1）
- 地域の人々に知られておらず，学校に要望もない（1）

郷土芸能を取り上げていない理由＜⑦その他＞（高等学校）

- 文化祭があると思うが，具体的に取り組むきっかけがない（1）
- 高校は全県区で郷土色が薄く，関心も薄い（1）
- 通信制で，生徒が県内全域に散在している（1）
- 地域にどのような郷土芸能があるか知らない（1）

図4－①　郷土芸能の指導に必要なこと（中学校）

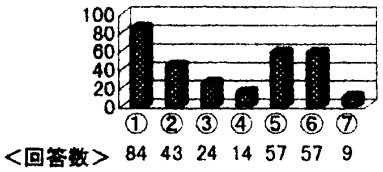
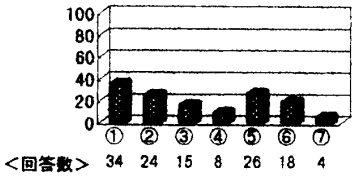



図4－②　郷土芸能の指導に必要なこと（高等学校）




①「郷土芸能」を指導してくれる人
②ビデオ
③解説書
④学習指導例
⑤実演をみる機会
⑥衣装・道具
⑦その他

郷土芸能の指導に必要なこと＜⑦その他＞（中学校）

- 指導者への謝礼，衣装のクリーニング代など予算が必要（3）
- 練習する場所，衣装などの保管場所が不可欠（2）
- 地域の協力（1）
- 学校に郷土芸能を招聘する（1）
- 郷土芸能のある地区を確認し知る必要がある（1）
- 郷土芸能フェスティバルなどをみる（1）
- 学校のスリム化を図りながら地域の特色と学校の個性を出すにはゆとりが必要（1）
- 歴史資料など（1）

郷土芸能の指導に必要なこと＜⑦その他＞（高等学校）

- 時間，発表の場，経費などの余裕が必要（1）
- 小学校，中学校との連携を持つ（1）
- 祭りなど発表の機会に出席できるとよい（1）
- 地域に率先して触れる（1）
- 地域の協力を得る（1）
- 継続性が必要（1）



NII-Electronic Library Service

Miyazaki Women's Junior College

表３－①　郷土芸能を取り上げて気付いた良い点，効果など（中学校）

| | | |
|---|---|---|
| **人との関わり** | | **29** |
| ＜地域社会との交流（学社融合）＞ | | 24 |
| • 地域の人達と交流が図れる，交流を深めることができる | 7 | |
| • 指導者，お年寄りとのよい人間関係が育つ | 4 | |
| • 地域の方々が知っていて，好評である | 4 | |
| • 世代間交流の場となり，心が豊かになる | 1 | |
| • 地域の方々の思いが伝わる | 1 | |
| • 地域の方との交流が図れ，普段の生徒の様子を見ていただけてよかった | 1 | |
| • 地域の方とのふれあいが学校では学べない貴重なものとなった | 1 | |
| • 練習や発表を通して，学校，家庭，地域社会が一体となれた | 1 | |
| • 学校の取り組みに関心が持たれるようになった | 1 | |
| • 地域の人材活用が図れ，学校と地域の融和が図れる | 1 | |
| • 地区の盆踊りや祭りで踊られ，体育大会でも違和感なく生徒が踊っているので今後も続けたい | 1 | |
| • 地域も発表の場を得て，自信を持たれた | 1 | |
| ＜生徒同士＞ | | 3 |
| • 生徒同士の連帯感が強まる | 1 | |
| • 慣れない動きをするため，連帯感や仲間意識が出た | 1 | |
| • 教え合いの形を取れたのでよかった | 1 | |
| ＜生徒と教師＞ | | 1 |
| • 生徒と教師のコミュニケーションが取れる | 1 | |
| ＜親子＞ | | 1 |
| • 一緒に練習，発表することにより，親子のふれあいの場になる | 1 | |
| **生徒が変わった** | | **17** |
| ＜生徒の視野が広がった＞ | | 5 |
| • 文化に対する視野が広がった | 2 | |
| • 「伝統」の持つ意味が分かり，物事をより深く考えるようになった | 1 | |
| • 興味・関心が古いものにも向いてきた | 1 | |
| • 郷土芸能に参加する生徒をあらためて眺め，周囲の生徒が人の能力の素晴らしさを感じた | 1 | |
| ＜学校が活性化された＞ | | 4 |
| • 学年，学校全体に新鮮な空気が流れ，活気を生み出してくれた | 1 | |
| • 生徒の生き生きとした活動が展開され，活動的になった | 1 | |
| • 当時の生活や考えを知る手がかりとなり，自分達の生活と比べ学校生活を見直すきっかけとなった | 1 | |
| • 学校行事の内容が充実した | 1 | |
| ＜生徒に自信がついた＞ | | 3 |
| • 発表の場を与えられ，自信につながった | 3 | |
| ＜生徒が生き生き，意欲的になった＞ | | 2 |
| • 芸能を学び身に付けるために，自ら練習を要求できるようになった | 1 | |
| • 日頃見られない生徒の生き生きとした姿が見られた | 1 | |
| ＜生徒に年輩者を尊敬する気持ちが出てきた＞ | | 2 |
| • 地域社会に尽くした人や高齢者に尊敬と感謝の念を深めることができた | 1 | |
| • 先人を敬う気持ちも出てきた | 1 | |
| ＜生徒の礼儀・姿勢がよくなった＞ | | 1 |
| • 舞の練習により，礼儀も身に付き，背筋も伸びて姿勢がよくなった | 1 | |
| **郷土の文化・芸能への関わり** | | **11** |
| ＜郷土芸能への興味・関心が高まった，理解が深まった＞ | | 6 |
| • 興味・関心を持つようになった，自然に受け入れることができるようになった | 3 | |
| • 受け継ぐ心が芽生える | 1 | |
| • 踊り，演じることの楽しさが体感できる | 1 | |
| • 踊りの意味が理解でき，動作がスムーズになった | 1 | |
| ＜地域の文化・芸能に気付く，発見する＞ | | 5 |
| • 地域の文化・芸能に気付く，発見する | 3 | |
| • 地域の伝承芸能を発見し，触れることができる | 1 | |
| • 日本文化のよさを知る | 1 | |
| **郷土への関わり** | | **6** |
| • 郷土愛が育つ，わいてきた | 2 | |
| • 郷土に対する関心，理解を深める | 2 | |
| • 郷土に誇りが持てる | 2 | |



NII-Electronic Library Service

Miyazaki Women's Junior College

表３－②　郷土芸能を取り上げて気付いた良い点，効果など（高等学校）

| | | |
|---|---|---|
| **郷土の文化・芸能への関わり** | | **17** |
| ＜地域の文化・芸能に気付く，再発見する＞ | | 11 |
| ・郷土の文化・芸能を知る，再発見する | 4 | |
| ・動きの再発見 | 1 | |
| ・見慣れた踊りの再発見 | 1 | |
| ・本物知らず，ＶＴＲや由来などを学習して素晴らしさに気づいた | 1 | |
| ・違ったイメージで踊れた | 1 | |
| ・変化させることで親しみが持て，堅苦しいイメージが払拭された | 1 | |
| ・見るに加えて，つくって踊る楽しさも学んだ | 1 | |
| ・郷土の文化を守ろうとする意識が芽生えた | 1 | |
| ＜興味・関心が高まった，理解が深まった＞ | | 6 |
| ・校内発表により郷土芸能への意識が高揚し，その輪が広がりつつある | 1 | |
| ・生の踊りを見る欲求が生まれた | 1 | |
| ・都城と沖縄の音楽，踊りの違いを知り楽しむ | 1 | |
| ・はじめての取り組みで，生徒は新鮮な気持ちで意欲的に取り組んでいた | 1 | |
| ・今年度からの取り組みだが，生徒の取り組みはよい | 1 | |
| ・取り組みもとても良い | 1 | |
| **生徒が変わった** | | **6** |
| ＜自信がついた＞ | | 4 |
| ・郷土芸能で自信をつけ，他教科に対する意欲も向上してくる | 1 | |
| ・郷土芸能を広く他地域に紹介することで，自分達の自信と誇りになる | 1 | |
| ・互いに郷土芸能を教え合うことにより，自分に自信を持つ | 1 | |
| ・やり通す自信，喜びが芽生えた | 1 | |
| ＜別な面がみられた＞ | | 1 |
| ・舞台では真剣な表情がみられ，生徒の別な面もみることができた | 1 | |
| ＜礼儀が身に付いた＞ | | 1 |
| ・礼儀が身に付いた | 1 | |
| **人との関わり** | | **4** |
| ＜地域社会との交流（学社融合）＞ | | 2 |
| ・体育祭で生徒が楽しそうに踊るのを地域の方々が温かく見守る雰囲気がある | 1 | |
| ・夜遅くまで生徒，職員，青年団には大変な苦労を願ったが，立派に発表でき意義はあった | 1 | |
| ＜生徒同士＞ | | 1 |
| ・クラス，全校で輪になって踊り，互いに教え合うことから協調性が生まれる | 1 | |
| ＜生徒と教師・保護者＞ | | 1 |
| ・ＰＴＡ，保護者，先生方とのふれあいの場となり，よいムードで行われる | 1 | |
| **郷土への関わり** | | **2** |
| ・互いに郷土芸能を教え合うことにより，自分の町に誇りを持つ | 1 | |



NII-Electronic Library Service

Miyazaki Women's Junior College

**表4－①　郷土芸能を取り上げて気付いた問題点，課題など（中学校）**

| | |
|---|---|
| **練習時間** | **11** |
| • 時間の確保が難しい | 3 |
| • 時間の確保が難しく十分な指導ができなかった，いいものに仕上がらない | 2 |
| • 部活動と重なり，時間調整が難しかった | 2 |
| • 放課後，土日，夜を利用するため，保護者の協力が必要であった | 2 |
| • 指導者の仕事時間との調整に苦労した | 1 |
| • 時間帯（夜）を考える必要がある | 1 |
| **指　導** | **8** |
| • 指導者に指導を依頼すること自体が難しい | 2 |
| • 学校側と指導者間の連携がうまくいかないことがある | 2 |
| • 適当な指導者をみつけること | 1 |
| • 指導者が来られないときの指導に困る | 1 |
| • 指導を担当していた教員が転勤した場合の指導の問題 | 1 |
| • 人伝なので正確な動きがわからない | 1 |
| **生徒の興味・関心** | **6** |
| • 興味・関心が低いため，積極性に欠ける | 1 |
| • 自発的にやろうとする生徒が少なく，声をかけて人数を集めている | 1 |
| • 生徒の興味・関心が薄くなってきている | 1 |
| • 生徒数減で，踊り手不足が生じている | 1 |
| • 地域で踊らないようになっている，地域のリーダーを育てる努力が大切 | 1 |
| • 実際の場で踊ることは少ないが，将来，生徒が踊りの輪に入ってくれればという気持ちで臨んでいる | 1 |
| **道具・資料等** | **6** |
| • 太鼓などの借用が難しい | 2 |
| • ジャンカン馬の借用が難しい | 1 |
| • 道具が高価で購入しにくい | 1 |
| • 資料が少ない | 1 |
| • 資料が指定文化財などのため，借用が簡単にいかず困った | 1 |
| **内　容** | **5** |
| • 生徒の興味にあっているかわからない | 1 |
| • 技能的に難し過ぎないか | 1 |
| • 教科授業としては取り上げにくい | 1 |
| • 学校では指導できない | 1 |
| • 問題にはなっていないが，特定の地域に伝わるものを学校で扱ってよいか気になる | 1 |
| **学社融合（地域との連携）** | **3** |
| • 地域の方々に任せるばかりでなく学校も融合して行う必要がある | 1 |
| • 指導者の協力に対して，さらに積極的に働きかける必要がある | 1 |
| • 地域の人たちが協力的でないと生かせない | 1 |
| **予　算** | **3** |
| • 楽器，衣装の購入費などの費用が必要 | 1 |
| • 保存会や教育委員会の援助があったが，経済的な準備が大変だった | 1 |
| • 予算がなく，地域の方へボランティアでお願いしなければならない | 1 |



NII-Electronic Library Service

Miyazaki Women's Junior College

表4－②　郷土芸能を取り上げて気付いた問題点，課題など（高等学校）

| | |
|---|---|
| **練習時間・場所** | **6** |
| • 練習時間の確保 | 3 |
| • 保存会・指導者との時間調整が難しい | 2 |
| • 練習場所の確保 | 1 |
| **指　導** | **6** |
| • 保存会の方々に指導を任せきりになりがち | 1 |
| • 指導する職員，生徒の養成は単年度でなく，継続的に実施しないとうまくいかない | 1 |
| • 指導者担当の教員の転勤に伴う後継者の問題 | 1 |
| • 指導者との調整が難しい | 1 |
| • 教師自身が郷土芸能に対する知識・技能を身に付ける必要性を感じた | 1 |
| • 生徒の踊りが良いのか悪いのか判断できない | 1 |
| **資料・衣装・道具等** | **6** |
| • 資料不足 | 1 |
| • 資料が持ち出し禁止になっている | 1 |
| • 資料の読解が困難 | 1 |
| • 臼太鼓のイメージに近づけつつ女子高生に合った衣装は大変だった | 1 |
| • 浴衣を揃えていたが，経済的負担を考え希望者だけになった | 1 |
| • 道具の問題 | 1 |
| **予　算** | **5** |
| • 予算の問題 | 2 |
| • 指導者・講師への謝礼 | 2 |
| • 衣装，楽器を借用する費用の問題 | 1 |
| **生徒の興味・関心** | **3** |
| • 生徒が郷土の踊りを知らない | 1 |
| • 地域からの要望は強いが，生徒の関心は薄れているようだ | 1 |
| • 地元の生徒が少なく，北諸県圏内の意識を持たせることが肝心 | 1 |
| **内　容** | **2** |
| • 体育祭などで，一部でなく学年，全校規模で発表できる状況が望ましい | 1 |
| • 由来や歴史を知らないと心を込めて踊れない | 1 |



NII-Electronic Library Service

Miyazaki Women's Junior College

## 5．考察

### (1) 実践率（表１―①，表１―②）について

アンケートの回収率はほぼ６割で等しく，郷土芸能の実践率もおおよそ同率であったが，中学校42.9%，高等学校44.4%と，わずかに高等学校が高率であった。

なお，小学校の調査では，回収率58.4%，実践率78.2%という結果であった。

### (2) ３年間に取り組まれた郷土芸能の学習（表２―①，表２―②）について

この３年間に取り上げられた郷土芸能は，「盆踊り・音頭」，「神楽」，「太鼓踊り」，「棒踊り」が多くなっている。これらは，宮崎県教育委員会の調査[4]によると，宮崎県内で数多く伝承されている郷土芸能のベスト４である。学校数が多いことから，「棒踊り」を取り上げているなど数的には中学校が多いが，中学校と高等学校の間に大きな傾向の差はみられなかった。

学習活動としての位置づけには違いが認められた。中学校では，体育大会に向けた取り組み，クラブ活動としての取り組み，学校が独自に設定している創意の時間などでの取り組みが比較的多く，高等学校では，保健体育科の単元としての取り組み，体育大会に向けた保健体育科の単元としての取り組みがより多くなっている。

学習内容は，中学校，高等学校ともに，大部分が歌を含めた「踊りの練習」となっている。これに，中学校では，時間的に余裕があると思われるクラブ活動や部活動で「歌や踊りの意味の学習」，「歴史や由来の学習」が加わり，高等学校では，「創作ダンス」や「作品づくり」といった創作学習が試みられている。

発表の場は，中学校，高等学校ともに，体育大会や文化祭が主体となっているが，中学校では，地域と関わる「地域の祭礼や年中行事」や「地域のイベント」が比較的多く，高等学校では，「高文祭」などの県下の高等学校の合同大会，校内発表会，授業内発表の順に多くなっている。中学校では，地域住民にも開放されている体育大会も含め，地域社会との交流を，高等学校では，学校相互，生徒相互の交流をより意識した発表の場となっている。

担当者は，中学校では，学校行事や校外発表では地域の指導者・伝承者が，クラブ活動や部活動では教員と地域の指導者・伝承者が協力して，高等学校では，保健体育科の教員が中心的に担当している。

学習形態としては，中学校では，秋季に実施される体育大会に向けて，全校生徒を対象とした５時間以内の配当で取り組まれることが多く，高等学校では，秋季に実施される校外・校内の発表に向けて，学年単位による一学期内に収まる配当時間での取り組みが多くなっている。

### (3) 郷土芸能の指導（図１―①，図１―②）について

指導についての違いは顕著であった。中学校は，「地域の指導者や伝承者に直接指導を任せている」場合が半数以上であるのに対し，保健体育科の単元内での取り組みが多い高等学校では，「教員が指導している」場合が多い。

ただし，外部の指導者に頼らずに教員が指導するには，「担当教員が解説書をみて指導する」ための「解説書の入手」，「ＰＴＡ雇用の職員」のための「ＰＴＡの協力」，さらには「生徒達自



NII-Electronic Library Service

Miyazaki Women's Junior College

身が資料収集，ＶＴＲ収録して，教え合った」といった「生徒に任せる」等々の工夫がなされていることも明らかとなった。

**(4) 郷土芸能を取り上げる理由（図２－①，図２－②），**
**郷土芸能を取り上げていない理由（図３－①，図３－②）について**

取り上げる理由，すなわち，取り組みの目的として，中学校は，「生徒達が郷土や自文化について再発見する機会としたいから」と「生徒達に地域や日本の文化を伝承してもらいたいから」が同数で，最も多く，高等学校は，「生徒達が郷土や自文化について再発見する機会としたいから」が最も多い。これらの次には，中学校，高等学校ともに「地域にすぐれた郷土芸能があるから」が多く，予想に反して，ダンス領域のフォークダンス（日本の民踊を含む）のねらいのひとつである「生徒達に歌ったり，踊ったり，演じたりを楽しむ体験をさせたいから」は多くない。

中学校では，校区が限定され地域との連携がより緊密と思われるが，そのために校区内にある郷土芸能の「伝承」に対する意識が，高等学校に比べて，より強く働いて「再発見」と「伝承」が拮抗しているのかもしれない。従って，中学校がねらいとするところの「自文化」はより身近な地域の文化であり，高等学校がねらいとするところの「自文化」は地域が代表する日本の文化であるということも推測される。また，中学校，高等学校ともに，学習内容の大部分を歌を含めた「踊りの練習」としていたにも関わらず，郷土芸能を楽しむ「体験」より「再発見」や「伝承」が取り上げる理由としてより多く選択されていることから，郷土芸能の学習そのものをねらいとする目的的な取り扱いより，郷土芸能の学習を通して「郷土や自文化の再発見」や「地域や日本の文化の伝承」に向かわせることをねらいとする，より手段的に郷土芸能が取り扱われているとも推断される。

一方，取り上げていない理由をみてみると，中学校，高等学校ともに，「取り上げる時間がない」，次いで「指導できる教員がいない」をより多く選択しているが，中学校はこれに加えて，「地域に郷土芸能がない」や「地域に教育活動として取り上げるにふさわしい郷土芸能がない」も選択している。これら「芸能がない」や「ふさわしい芸能がない」を選択している高等学校は１校だけであるのに比べて，中学校では，取り上げる芸能の地域性にこだわっている様子がうかがえる。地域と関わった場での発表が多い中学校としては，当然のことであろう。また，高等学校では，「全県区で郷土色が薄く，関心も薄い」や「生徒が県内全域に散在している」とあるように，ある特定の地域の芸能に限らない，より広汎な視野からの取り組みを考えていると思われる。

**(5) 郷土芸能を取り上げて気付いた良い点・効果など（表３－①，表３－②），**
**郷土芸能を取り上げて気付いた問題点・課題など（表４－①，表４－②）について**

郷土芸能に取り組んで気付いた良い点・効果，すなわち学習の成果として掲げられている観点には差違はないが，内容には少なからぬ違いが認められた。郷土芸能の教材化を工夫して教員が指導することの多い高等学校では，「地域の文化・芸能に気付く，再発見する」や「興味・関心が高まった，理解が深まった」といった郷土の文化・芸能に関する内容がより多く，対して，地域の伝承者や指導者に指導を任せることの多い中学校では，「地域社会との交流（学社融合）」や



NII-Electronic Library Service

Miyazaki Women's Junior College

「生徒と生徒，教師，親」といった人的交流に関わる内容がより多く成果として出されている。

一方，取り組んで気付いた問題点・課題としては，中学校，高等学校ともに，「練習時間，練習場所」，「指導」，「衣装，道具，資料」，「生徒の興味・関心」といった観点からより多くあげられている。しかし，同じ「指導」の問題であっても，具体的内容を比較すると，明確な違いがみられた。中学校では，「指導者に指導を依頼すること自体が難しい」，「適当な指導者をみつけること」，「指導者が来られないときの指導に困る」といった指導者の依頼に伴う問題，高等学校では，「保存会の方々に指導を任せきりになりがち」，「指導する職員，生徒の養成は単年度でなく，継続的に実施しないとうまくいかない」，「教師自身が郷土芸能に対する知識・技術を身に付ける必要性を感じた」といった教師自身の郷土芸能に対する知識不足や情報入手の難しさであった。

### (6) 郷土芸能の指導に必要なこと（図4－①，図4－②）について

中学校，高等学校ともに，「郷土芸能を指導してくれる人」，「実演を見る機会」の順に多く，次いで「ビデオ」や「衣装・道具」が多くなっている。「解説書」や「学習指導例」といった間接的な知識や情報より，実際の郷土芸能を直接体験することから指導をすすめたいという意図がうかがえる。

これは，裏を返せば，郷土芸能の知識や技能，特に技能を持った教員が少ないということであろう。地域の伝承者や指導者に指導を任せ，幾分「伝承」に対する意識が強いと思われる中学校では「衣装・道具」が，外部の指導者に頼らずに教員が教材研究を凝らして指導していることの多い高等学校では「ビデオ」がより必要とされている。

また，中学校，高等学校ともに，最も必要とされているのは「郷土芸能を指導してくれる人」であるが，取り組んで気付いた問題点・課題を併せみると，中学校では，生徒を直接指導してくれる指導者を必要とし，高等学校では，教材研究をすすめたり，深めたりするための生きた教材としての指導者をより求め，生徒を直接指導してもらうためだけの指導者を求めているのではないと思われる。

## 3．まとめ

中学校と高等学校における郷土芸能の取り扱いの実態について，比較考察したところ，以下の共通点，相違点が認められた。

〔共通点〕

- 取り上げている郷土芸能は，宮崎県内に最も多く伝承されている「盆踊り・音頭」，「神楽」，「太鼓踊り」，「棒踊り」などが主である。
- 学習内容は，歌を含めた「踊りの練習」が主体である。
- 取り上げる理由は，「生徒達に郷土や自文化について再発見する機会としたいから」，「地域にすぐれた郷土芸能があるから」である。
- 取り上げない理由は，「取り上げる時間がない」，「指導できる教員がいない」である。
- 郷土芸能の学習そのものをねらいとする目的的な取り扱いより，手段的に取り扱われる傾向が



NII-Electronic Library Service

Miyazaki Women's Junior College

ある。

〔相違点〕

- 学習活動としての主な位置づけは，中学校は体育大会，高等学校は保健体育科の単元である。
- 発表の場は，中学校は地域社会との交流，高等学校は学校相互や生徒相互の交流をより意識したものとなっている。
- 指導は，中学校は地域の指導者や伝承者，高等学校は教員が教材研究を工夫して担当することが多い。
- 中学校は芸能の地域性と伝承にこだわって，高等学校は特定地域にこだわらない広汎な取り組みを考えている。
- 取り組みの成果として顕著な内容は，中学校では学社融合をはじめとする人的交流，高等学校では郷土の文化・芸能の再発見や理解といった郷土芸能そのものに関することである。
- 取り組みの課題は，中学校は地域の伝承者などへの指導依頼，高等学校は教師の教材研究のための知識や技術に関する情報収集である。

郷土芸能は，総合的な学習，学社融合，学校相互の交流，国際化がすすむ中で自国の文化と伝統を尊重する日本人の育成等々の学習の教材として，これから，大いに期待されるものである。今回の調査においても，そのような期待が持たれていることははっきりと認められた。殊に，中学校の実践からは，学社融合教育に大きな成果が望まれていることとともに，すでに少なからぬ成果の上げられていることがうかがえた。

これからの教育課程の学習材として大きな可能性をもった郷土芸能ではあるが，保健体育科のダンス領域における学習材としての郷土芸能の可能性を探る立場からは，郷土芸能が「郷土芸能による学習」として総合的な学習や学社融合教育の手段的な教材である前に，郷土芸能の学習そのものを目的として「郷土芸能の中の学習」，すなわち，郷土芸能を踊って，身体で理解して，郷土芸能への思いを育て，ひいては自文化として広く他に紹介，発信していくといったことを第一に目指すべきであると考え，訴えていきたい。

そこで，今後は，今回の調査では十分に踏み込むことができなかった郷土芸能の具体的な学習の内容と方法について，現在すすめている学校教育と保存会が連携して取り組んでいる郷土芸能の学習現場の取材に加え，今調査の回答として寄せられた実践からも典型的，あるいは特徴的な事例を選んで取材を行ない，よりその実態に迫るとともに，並行して，教材づくりと授業研究を一層深め，宮崎の「郷土芸能」を題材とした表現・創作ダンス（“創作”と“伝承”を同時に体験する学習）の授業を提案していきたい。

できれば，そのような授業づくりを通して，今回の調査において，中学校からも，高等学校からも取り扱いの課題として提出された「取り上げる時間がない」をはじめとする，「指導できる教員がいない」，「練習場所の確保」，「衣装や道具がない」，「予算がない」といった問題点が解消に向かうような，問題と感じられなくなるような発想や提案も見出したい。

さらには，今調査から事例を選択して取材する際には，伝承過程からの教材化も視野に置いてすすめたいと考えている。なぜなら，これまで実施してきた郷土芸能の保存会に対する聞き取り調査や，練習から祭りや舞台本番に向かうまでの取材などから，ダンス領域における学習材としての可



NII-Electronic Library Service

Miyazaki Women's Junior College

能性を探るにあたっては，歌や踊りなどの芸能そのものとともに，何がどのように伝えられてきたかといった伝承の過程からも，学習材としての可能性が探究できるのではないかと思われたからである。それは，今調査の回答において，中学校で，郷土芸能を取り上げた成果としてその地域の人々との交流が多く記述されていたように，郷土芸能の調査や取材をすすめる中で，調査対象の芸能のすばらしさに感じ入ると同時に，芸能を守り伝える人々のすばらしさに出会ったことから気付いたことである。中学校が掲げる地域との交流は，単に，ボランティアで指導してくれる好意や熱意，道具や衣装を貸してくれる配慮や善意などを指しているのかもしれない。しかし，もし，地域の伝承者や指導者から生徒達が郷土芸能を習い受け継ぐ過程そのものに，特別な意味を感じて記述しているとしたら，これまで焦点を当ててこなかった郷土芸能を伝承する過程においても，ダンス領域の学習材としての可能性を探りうることになる。できうるならば，地域交流をはじめとする人的交流を学習成果の大きな内容として掲げている学校の郷土芸能の学習過程に立ち会って，伝承過程における教材化の可能性についても，検討してみたい。

## 注

[1] 参考文献(5)
[2] 参考文献(4)
[3] 参考文献(6)
[4] 参考文献(1)

## 参考文献

(1) 「宮崎県の民俗芸能－宮崎県民俗芸能緊急調査報告書－」宮崎県教育委員会，1994
(2) 「宮崎県史資料編民俗２」宮崎県，1992
(3) 「事例研究－郷土の民踊・芸能の学習方法を探る－」高橋るみ子，宮崎大学教育学部実践研究指導センター紀要第５号，1998
(4) 「郷土芸能を題材とした表現・創作ダンスの学習」高橋るみ子，岩田靖，佐々木昌代，中間千恵子，宮崎大学教育学部実践研究指導センター紀要第６号，1999
(5) 「表現運動とフォークダンス（日本の民踊）の学習」高橋るみ子，佐々木昌代，中間千恵子，宮崎大学教育学部紀要第58号，1999
(6) 「地域と学校教育をつなぐ郷土芸能の可能性を探る－地域から－」佐々木昌代，高橋るみ子，中間千恵子，宮崎大学生涯学習教育研究センター研究紀要第４号，1999
(7) 「民俗芸能辞典」仲井幸二郎，西角井正大，三隅治雄編　東京堂出版，1981
(8) 「中学校学習指導要領案　平成10年11月・文部省発表」時事通信社，1998
(9) 「体育の授業を創る」高橋建夫，大修館書店，1994

［1999年11月30日　受理］



NII-Electronic Library Service

Miyazaki Women's Junior College

## [アンケート用紙]

### 教育活動における「郷土芸能」の実態に関するアンケート調査

この調査は，中学校，高等学校の教育活動の中に，「郷土芸能」がどのように取り入れられているか，その実態に関する情報を得るために実施させていただくものです。

ここで「郷土芸能」と呼ぶのは，地域に伝承されている神楽，盆踊り，太鼓踊り，棒踊り，その他です。

基礎的事項　(1)学校名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(2)生徒数　男子＿＿名＋女子＿＿名＝＿＿名

**Q1．貴校では，教育活動の中で「郷土芸能」を取り上げていますか。該当する番号の□にレ点をつけてください。**

□①今年度取り上げた，または取り上げる予定である。→Q2～Q4，Q6～Q8に御回答ください。

□②過去3年間に取り上げたことがある。→Q2～Q8に御回答ください。

□③過去3年間取り上げていない。→Q5，Q8に御回答ください。

**Q2．Q1．で①あるいは②と回答された学校に具体的におたずねします。**

**平成9～11年度についてお答えください。該当する番号の□すべてにレ点をつけてください。**

| 郷土芸能の名前 | 学習活動 | 発表の場 |
|---|---|---|
| | □①保健体育科の単元<br>□②保健体育科以外の教科の単元<br>（教科名　　）<br>□③学校行事<br>□④クラブ活動<br>□⑤部活動<br>□⑥その他→具体的に<br>（　　） | □①単元の中<br>□②独自の校内発表会<br>□③体育的行事<br>□④地域の祭礼や年中行事<br>□⑤地域のイベント<br>□⑥他団体との交流会<br>□⑦その他→具体的に<br>（　　） |
| 対象・時間・時期 | 学習内容 | 担当者 |
| 学年＿＿＿＿年生<br>男子　約＿＿＿＿人<br>女子　約＿＿＿＿人<br>配当＿＿＿＿時間<br>実施時期<br>＿＿年＿＿月 | □①踊りの練習<br>□②歌や楽器の練習<br>□③歌や踊りの意味の学習<br>□④歴史や由来の学習<br>□⑤その他→具体的に<br>（　　） | □①保健体育科の教員<br>□②保健体育科以外の教員<br>□③保護者<br>□④その他→具体的に<br>（　　） |



NII-Electronic Library Service

Miyazaki Women's Junior College

**Q 3．「郷土芸能」の指導についておたずねします。該当する番号の□すべてにレ点をつけてください。**

□①地域の指導者や伝承者に直接指導を任せている。
□②「郷土芸能」の知識・技能をもつ教員が担当して指導している。
□③「郷土芸能」の知識・技能をもたない教員が，まず地域の伝承者や保存会から指導を受け，それから指導に当たる。
□④地域の伝承者や保存会に頼れないので，担当教員がいろいろ調べて指導している。
□⑤その他

→具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

**Q 4．「郷土芸能」を取り上げる理由についておたずねします。該当する番号の□すべてにレ点をつけてください。**

□①地域にすぐれた「郷土芸能」があるから。
□②地域から「郷土芸能」を取り上げてほしいという要望があるから。
□③生徒達から「郷土芸能」を取り上げてほしいという要望があるから。
□④生徒達に歌ったり，踊ったり，演じたりを楽しむ体験をさせたいから。
□⑤生徒達に地域や日本の文化を伝承してもらいたいから。
□⑥生徒達が郷土や自文化について再発見する機会としたいから。
□⑦その他

→具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

**Q 5．取り上げていない学校，以前は取り上げていたが現在は取り上げていない学校に，取り上げていない理由をおたずねします。該当する番号の□すべてにレ点をつけてください。**

□①地域に「郷土芸能」がない。
□②地域に教育活動として取り上げるにふさわしい「郷土芸能」がない。
□③地域の協力が得られない。
□④指導できる教員がいない。
□⑤取り上げる時間がない。
□⑥学校全体の協力が難しい。
□⑦発表の場がない。
□⑧教育活動の中で「郷土芸能」の伝承を取り扱うことに抵抗感がある。
□⑨生徒の興味・関心が薄い。
□⑩太鼓などの道具や衣装がない。
□⑪その他

→具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

**Q 6．「郷土芸能」を取り上げてどんなよい点，効果などに気付かれましたか，具体的にお書きください。**

**Q 7．「郷土芸能」を取り上げてどんな問題点や課題などに気付かれましたか，具体的にお書きください。**

**Q 8．知識・技能をもたない「郷土芸能」をどうしても指導しなければならなくなった場合，どのようなことが必要であると思われますか，該当する番号の□すべてにレ点をつけてください。**

□①「郷土芸能」を指導してくれる人
□②ビデオ
□③解説書
□④学習指導例
□⑤実演をみる機会
□⑥衣装・道具
□⑦その他

→具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

御協力ありがとうございました。
御回答についておたずねすることもあるかと存じますので，恐縮ですが，御記入者のお名前をお書きください。（　　）



NII-Electronic Library Service